

令和6年度第2回山鹿市子ども・子育て会議 会議録要旨

会議日程

令和6年12月12日（木）午後6時00分開会

○委嘱状交付式

- 1 開式
- 2 委嘱状交付
- 3 閉式

○子ども・子育て会議

- 1 開会
- 2 「山鹿市子ども憲章」唱和
- 3 福祉部長挨拶
- 4 会長及び副会長選任
- 5 会長挨拶
- 6 議事
 - 1) 山鹿市こども計画（第1期）について
- 7 その他
- 8 閉会

出席委員（11名）

伊藤良高 委員	松本雅雄 委員	山田原野 委員	渡辺研一 委員
福島誠四郎 委員	坂口美咲 委員	廣瀬卓三 委員	古江律代 委員
立山康隆 委員	工孝幸 委員	百田止水 委員	

欠席委員（6名）

迎田浩二 委員	田代桂一 委員	栗原昭浩 委員	三浦貴子 委員
杉本真子 委員	下田由布子 委員		

事務局職員出席者

徳丸和孝 福祉部長	野満ふみ子 福祉部次長	
福祉部子ども課		
原口雄二 課長	猿渡裕一 課長補佐	原仁美 課長補佐
酒井恭子 課長補佐兼係長	前田智康 係長	野見山和子 専門員
川本千明 主任主事		

午後6時00分 開会

【委嘱状交付式】

1 開式

事務局進行による開式宣言

2 委嘱状交付

事務局進行により就任した17名の委員を紹介し、代表して伊藤良高委員へ福祉部長より委嘱状を交付

3 閉式

事務局進行による閉式宣言

【子ども・子育て会議】

○事務局進行

委員17名に対し出席委員11名であるため条例第5条第2項に規定された議事定数の2分の1以上を満たしていることを宣言

1 開会

事務局進行による開会宣言

2 「山鹿市子ども憲章」唱和

全員起立し「山鹿市子ども憲章」唱和

3 福祉部長挨拶

各委員に対し本日出席いただいたこと、併せて日頃から本市の行政全般にご理解ご協力をいただいていることへのお礼

本市では、令和6年2月に健康都市宣言を行い、各部の垣根を越えた施策に取り組み、誰もが住みたい、住み続けたいと思える健康なまち山鹿を目指しているところです

本日は事前にお配りしております資料をもとに、委員の皆様からご意見ご提言をいただき、よりよい子育て支援施策の展開につなげたい旨の挨拶

4 会長及び副会長選任

事務局より会長及び副会長への立候補を募り、委員より事務局一任との発言

事務局案にて伊藤委員に会長を、三浦委員に副会長を提案し、委員了承

5 会長挨拶

自己紹介。山鹿市とのこれまでのつながりから、現在山鹿市がトップクラスの子育てしやすい安心安全なまちになっているかの実感が重要である。就学前は子育てしやすいが進学や就職で地元を離れ戻らないという話に納得し、今回の計画には若者施策として40代・50代まで含めるべきであるとする旨

山鹿市と熊本学園大学は包括協定を結んでおり、灯籠踊りに学園大学の大学生に参加させるなど既存の資源を有効活用すればさらなる取り組みができると考えた旨

最後に各分野の委員から忌憚ない意見をお願いする旨の挨拶

○事務局進行

時間の都合上、委員及び事務局紹介を割愛し名簿及び席次表にて確認をお願いする旨の説明

6 議事

○事務局進行

条例第5条第1項に基づき、議事の進行を会長へ依頼

○議長（会長）

事務局に対し、議事1の説明を要求

○事務局

議事1 山鹿市こども計画（第1期）について説明

まず、第1章 計画の策定にあたってを説明

第1章の1 計画策定の背景、第1章の2 計画策定の考え方、第1章の5 計画の期間、今後のスケジュールを説明

次に、第2章 山鹿市のこども・子育てを取り巻く状況についてを説明

第2章の1 山鹿市のこども・子育てを取り巻く状況、第2章の2 山鹿市の子ども・子育て支援施策の課題を説明

○議長（会長）

委員へ意見や質問を促す旨

題名に「・若者」を入れて「こども・若者計画」にすること及び分かりやすい副題をつける旨の提案

冒頭の市長挨拶には大切な部分なのでよい文章を掲載されたい旨、及び山鹿憲章を計画に掲載してほしい旨の要望

3ページのイラストの描き方が固定観念が強く古い感じがするため、家族形態や性の多様性もある現代にあったイラストへ変更する旨の要望 及び今後いかに真剣に取り組むか積極的なイメージを描く旨の要望

○委員

山鹿の独自性、山鹿らしさはどこに入るのかの質問

○委員

ファミサポ事業について、社協の市民アンケートでは最も利用したいが利用できないサービスだったが、今回のアンケートでは別に利用しなくてもいいサービスとの回答があり、ここの整理をどのようにやっていくべきかと考えた旨の意見

子ども本人へのアンケートでは山鹿に住みたいという自由記述も多かったので、ここをどう分析すべきか、また縦割りではなく高齢者からこどもまでの一連の流れを考えていくことが大きな鍵になる旨の意見

○議長（会長）

先の委員への回答を事務局へ依頼

○事務局

山鹿市独自の部分は第3章の計画の基本的な考え方、基本理念に入る旨の回答

○委員

都会に出て行くのは地域の古い慣習が面倒くさいと聞いたことがあり、小さい時から地域の中で触れ合うことがなく地域愛が薄れているため、元気なお年寄りを活用して子どもたちと触れ合うことも必要だと考える旨の意見

○委員

3ページの「出生前から30代まで」とある30代は何を指しているのかの質疑

○事務局

こども若者計画では若者の定義としては30代までと定義されていたが、こども基本法ではこどもとは年齢によって区切るものではなく心身の発達の過程にあるものという定義となっているので、年齢的に区切らず発達過程に対する施策はこのこども計画に含める旨の回答

○議長（会長）

年齢で区切らないので3ページの記載やイラストを工夫する必要がある旨の発言

場合によっては40代50代まで読み込めるようにすると、山鹿の独自性が出る旨の発言

○委員

若者支援は第何章に出てくるのかの質疑

○事務局

第6章のこども若者計画の部分になる旨の回答。

○委員

若者支援の担当課はどこかの質疑

○議長（会長）

事務局へ回答を促す発言

○部長

貧困や引きこもりなどは福祉部の福祉課になるが、就労関係は商工や農業関係の部署になる旨の回答

どこまで書き込むかは非常に難しく完璧な形で3月まで出来るのかと心配している旨、何を盛り込むかの議論の方が一番大事である旨の意見

○議長（会長）

読んで面白いと思える様々な施策を取り入れた山鹿らしい計画を策定してほしい旨及び総合計画を始め他計画の重要な子ども関連施策とは関連付けるよう要望

会議には市長以下関連部局の職員にも出席願いたい旨の要望及び主な担当部局を計画に明示する旨の提案

第2章に進み全体的に議論したい旨の発言

施策の成果や調査の分析がきちんとなされて、だからこういう課題となるという流れがきちんと描かれているかが大事なところである旨の意見

○議長（会長）

先の委員発言に対する事務局の回答を促す発言

○委員

共に取り組まなければならない問題で、今後の連携強化が課題である旨の意見

○議長（会長）

事務局としての回答を促す発言

○事務局

ファミリーサポート事業は今後、社会福祉協議会と協議しながら利用しやすい内容や広報の仕方など今後連携していきたい旨の回答

○委員

ファミサポ事業は相互援助活動であり、ボランティア精神を持つ方の確保が厳しくなっている。また今注目されている子育て支援というカテゴリーでその責任を担えない。そこをどう守りながら発展させていくかが今後の課題であり、社会の状況に応じたブラッシュアップを、ファミサポに限らずやっていかなければならない旨の意見

○委員

放課後児童クラブでは、支援が必要な子が増えてきており、支援する先生方が不安に感じているので事前に情報をいただきたい旨及び支援の勉強ができる体制づくりの要望

○議長（会長）

今のような意見を盛り込めるところはあるのかという旨の質疑

○事務局

事業計画の第4章だが、大きな問題点としての取り組み内容の記載になる旨の説明

○議長（会長）

課題がニーズ調査と実態調査の結果からだけなので深まりや描きぶりが足りない、状況の説明はあるがそこにどんな問題があってどんな課題があるかが読み込めない、大幅な変

更は難しいがちょっと意識して作成してほしい旨の意見・要望

○委員

幼稚園の充足率がなぜ記載ないのか、幼稚園の記載が機械的に感じるという旨の意見

○委員

学童クラブのニーズを具体的な数字で示したほうがいいという旨の意見

○委員

全ての放課後学童クラブで障がい児の受け入れの体制が整っていますと断言せず、努力をしていますとかご相談に応じて体制を整えていますとかの言い方がいいという旨の意見

○議長（会長）

課題は個別事業では書かず 52 ページ以降に書き込むとよいのではという旨の提案

○委員

医療的ケア児の放課後児童クラブでの受け入れについて、看護師確保に苦慮しているので、市へ協力をお願いしたい旨の要望

ショートステイ事業及び病後児保育で令和 5 年度の件数増加の理由に関する質疑

○事務局

ショートステイは保護者が入院されたことでショートステイを利用されたためであり、病後児は、広報で周知がある程度できたこと、多数回利用が増えたためである旨の説明

○部長

令和 3～4 年度は感染対策をきちんとやっていたのでインフルエンザになるこどもの数も少なく、預ける人が少なかったという旨の説明

○委員

こども若者計画を含めて一体的な計画とすること、30 代までの若者も対象とすることからタイトルはこども・若者計画になるのが自然である旨及び他部の事業も同様に分析すべきであるという旨の意見

○議長（会長）

今回の案は支援事業計画ベースだがそれだけで十分なのかという意見は重要な指摘である旨の意見。既存の事業を盛り込むことを検討してほしい旨の要望

○部長

前段部分だけでもこれだけのボリュームがあるため、最終的にはバランスを考えて調整が必要である旨の説明

○議長（会長）

最終的な媒体は紙媒体なのか、ホームページへの掲載はあるかの質疑

○事務局

委員には冊子を配布し、ホームページにも掲載する旨の説明

○委員

総合計画を一番上位にして他の計画を統合する形がよいと思う旨の意見

○部長

総合計画は数年前に策定のため尊重はするが新しい考え方を入れるべきであり、来年2月に市長選挙を控えている現段階では委員のご意見をいただくのが一番と考える旨の説明
今からの方向性や将来に向けた考え方を一番入れなければならないという旨の意見

○議長（会長）

首長がどなたになろうとも子育て支援をしっかりとやるんだというところは変わらないと思うので、既存の計画の良いところは取り込みながら一体化し、総合計画にも反映できるようなメッセージ性の高い計画を策定してもらいたいという旨の要望

○委員

全国共通のこども像ではなく、山鹿市でどういうこどもを育てるのが出てこなかった
ので、計画の中ではっきり示していただきたいという旨の意見

○委員

教職員も保護者も知らないことが多いのでしっかり周知していくことが大事である旨、
こどもが幸せになるためには、保護者が家族が幸せでないといけないと感じており、地域
との繋がりがとても大事だと感じるという旨の意見

こどもたちの精神的健康やメンタルが心配される事案が散見され、それが課題であると
挙げてあるので、どんな対策が出されるのか、不安を感じた保護者やこどもが利用できる
体制ができればいいという旨の意見

○委員

例えばインターネットの問題はアンケートや課題でも量が少ないので、行政としてこど
もたちを守るということを強く出したほうがいいという旨の意見

○議長（会長）

資料としてこども基本法や山鹿憲章を掲載してほしい旨の要望及びこどもの理念を理解
する学習の一環として読んでもらう機能を果たせたらという旨の意見

委員の意見をうまく取り入れ、こんなにも子ども支援に取り組んでいることを読まれ
て、戻ってきて住んでみたいということと結びついていくことに期待する旨の感想

議事を終了する旨宣言

7 その他

子ども本人からのアンケート調査結果を配布している旨及び市長との意見交換会の意見
書回答は作成中であり追って送付する旨説明

8 閉会

事務局進行による閉会宣言。

午後7時35分 閉会